

第1章 はじめに

平成19年に策定した「円山動物園基本構想」に基づく基本計画により、アジア・アフリカゾーンの整備のほか、世界基準を満たすホッキョクグマ館やゾウ舎の新設など着実に事業を進めてきた。また、獣医療体制の強化を図るとともに、動物専門員を新設するなど、円山動物園の人員体制も大きく変わった。

一方、動物福祉や生物多様性の保全など、国内外の動物園を取り巻く環境や役割が構想策定時から大きく変化してきており、そうした変化への対応が求められている。

こうしたことを踏まえ、基本構想に替わる新たな基本方針として、開園から100年目を迎える2050年を目標年次とする「ビジョン2050」を策定することとした。

札幌市まちづくり戦略ビジョン

札幌市環境基本条例

規定に基づき策定

第2次札幌市環境基本計画

2050年のあるべき将来像

- ・2030年の姿(長期的な目標)
- ・施策の方向

環境分野の個別計画

生物多様性さっぽろビジョン

札幌市環境教育・環境学習基本方針

円山動物園基本方針「ビジョン2050」

第2章 円山動物園が目指す未来

1 基本理念

命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園

「命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園」を基本理念として、自然と人が共生する持続可能な社会の実現に貢献する。

STEP 3 自然と人が共生する持続可能な社会が「実現」する

STEP 2 全ての人が自然をまもるために「行動」する

STEP 1 全ての人が自然環境の大切さを「実感」する

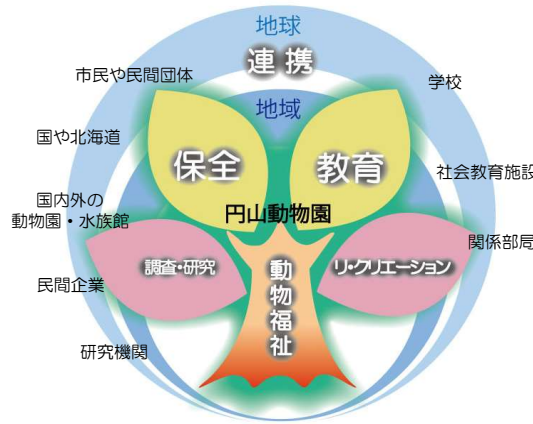


2 基本理念に基づく取組

全ての人が自然環境の大切さを「実感」し、自然を守るために「行動」し、そして、自然と人が共生する持続可能な社会の「実現」に貢献するため、円山動物園は「動物福祉」を根幹に、生物多様性の「保全」、「教育」「調査・研究」「リ・クリエーション」に力を入れていく。

※「ビジョン2050」では、レクリエーションに代わる表現としてリ・クリエーションを「再創造」と定義して使用する。

3 取組の概念図



第3章 基本理念に基づく取組

1 重点項目



(1) 【保全】動物園の強みを生かして生物多様性の保全に貢献

地球規模の保全活動に貢献

飼育動物を通じて、地球規模での保全活動に貢献

- 動物園を野生動物種の「第二の生息地」として捉え、生息域外保全に積極的に取り組む。
- 国内外の動物園や大学等の研究機関と協力して、繁殖技術の確立、科学的な検証に基づく繁殖計画の立案・推進に努める。
- 生息地の政府機関や動物園、大学等の研究機関との情報交換などを通じて、野生動物種の生息環境の保全活動に関わる。
- 現地の保全活動に参加することにより、現場感覚を養い、普及啓発や環境教育活動などの取組を通して、生息地に対する関心や理解の促進につなげる。
- 十分な活動資金を獲得する仕組みを構築し、現地の保全活動団体等を通して、保全活動の担い手の育成や保全活動の推進など、生息地の活動を支援する。



地域の環境保全活動を活性化の拠点に

動物園が保有する知識や経験、集客力を生かし、環境保全活動の拡大・活性化に貢献

- 都心や公園、原始林といった周辺地域のつながりを重視し、円山エリア全体の生態系の保全に貢献する。
- 市民とともに行う環境保全活動の促進に努め、地域の活動拠点としての役割を果たす。
- 各地で行われている保全活動の情報を収集・発信するとともに、園外での自然体験活動の促進にも寄与する。
- 森林や河川、草原などの保全活動の促進に寄与する。
- 絶滅を回避するための野生復帰を目指した希少種の飼育などを通して、生物多様性の保全に貢献する。
- 外来生物の除去活動の促進や拡散防止に貢献する。
- 人間社会と野生動物の摩擦の軽減や健全な生態系を維持するために、増えすぎた個体を減らす対策の必要性など市民理解を促進する役割を果たす。



(2) 【教育】自然の大切さと動物の魅力伝える

世界中の野生動物のことを発信

地球規模の環境問題の現状や生物多様性保全の必要性を伝える

- 飼育展示を通し、多様な野生動物が存在する地球環境の素晴らしさ、生態系の重要性を伝える。
- 飼育する全ての動物種の保全への貢献を念頭に置いた展示や解説を通して、生息環境の現状を来園者に正しく伝える。
- 動物の生息環境を保全するために私たちが出来ること、普段から心がけることは何かを伝える。
- 園外へ伝える手段を整備するとともに、メディアも活用し、より効果的な情報発信を行う。
- 野生動物に親近感を持てるよう動物園内の空間を生息環境に近い状態に整備する。
- さまざまな団体で、動物園で情報を発信し、普及啓発活動に取り組める体制を構築する。
- 人間と野生動物との関係・距離感、野生動物に対する生命観を考えてもらう機会を提供する。



総合的なフィールドミュージアムとして地域の教育拠点に

動物園周辺施設や教育施設等と協力し、地域の環境教育の拠点を目指す

- 生命を実感し、豊かな感性を育ててもらおう生きた動物を展示する博物館としての役割を果たす。
- 幅広い年齢層に対応できるプログラムや解説板、展示物を作る。
- 生命に対しての感覚を豊かにする伝え方を心掛け、情操教育への効果を発揮するよう取り組む。
- 畜産種や愛玩種を中心としたふれあいの場を提供する。
- 円山動物園の森などを活用し、園内でも自然環境を体感してもらおう。
- 参加型の調査活動や観察会を通して、地域の生態系に関して啓発する。
- 学校教育で活用できる教育プログラムを開発する。また、博物館や教育機関とともに教材開発に取り組む。
- 市民向けのフォーラムを開催するほか、外部に講師を派遣するなどし、普及啓発の場を広く展開させる。



(3) 【調査・研究】動物のこと・環境のことを探求する

大学などの研究機関等と協力して、動物に関するさまざまな調査・研究に取り組む

- 動物の生理や生態、獣医学的な事柄のほか、野外での保全活動や動物園運営に関することなどを対象とする。
- 外部機関との共同研究や研究協力に対応できる体制を整える。
- 職員の主体的な調査・研究を企画、立案、実行を推奨するとともに、新たな人材育成にも力を入れる。
- 職員が常に新しい調査や研究方法を学べる体制を確立する。
- 日頃から適切に必要な記録を行い、保存・管理する。
- 動物関連の研究集会に加え、関係する学会やシンポジウムなどに積極的に参加するとともに、調査や研究の成果を学会や論文で発表する。



(4) 【リ・クリエーション】知的好奇心を満たす心地よい空間を創造する

動物たちの生き生きとした姿を通して、元気を回復してもらおう場を提供するとともに、より楽しく、心地よい空間づくりに努める

- 職員のみならず、売店など円山動物園に関わる一人一人がおもてなしの心を持って接する。
- 子どもや高齢者、障がいのある方でも、安全で安心して楽しく過ごせるように園内整備を進める。
- 公共交通機関の利用促進を図るとともに、臨時駐車場の確保など渋滞緩和策を講じる。
- さまざまな利用に満足してもらえる安全で快適な空間を目指す。
- 海外からの来園者にも分かりやすい施設案内や動物の解説方法について、工夫・改善を行う。
- 植栽や園路でも動物の生息環境を想像できる空間づくりを進める。
- 解説や展示物などに工夫を凝らしたり、体験型イベントや案内ガイド、特別展の実施など取組を充実させる。
- 行動観察のポイントや他の動物との比較、最新情報から豆知識まで、動物を好きになってもらえる情報を発信する。
- 専門的知識を求めている来園者にも満足してもらえるような深い見識や情報を提供する。

2 取組の根幹



(1) 【動物福祉】すべての命に最善の暮らしを

動物たちが健康で栄養状態も良く、安全で野生本来の行動が発現可能な生活を送ることができる動物福祉に最大限に配慮する

- 栄養面にも配慮した飼料を提供する。
- 本来の行動がとれ、もともと持っている能力を発揮できるような飼育環境を作る。
- 不測の事態においても、動物たちが安全で安心して暮らせるよう日頃から備える。
- 環境エンリッチメントなど行動の選択の幅が広がる取組を行う。
- ハズバンドリートレーニングを取り入れるなど、動物の治療等における負担軽減に努める。
- 動物診療技術の向上を図るとともに、予防及び治療医学に基づいた適切な獣医療を提供する。
- 動物福祉の科学的な基準を導入したガイドラインを整備し、達成を評価する。
- 十分な飼育スペースの確保や老朽化への対応、最新設備の導入など、動物たちの安全かつ快適な暮らしを確保する。

3 連携



【連携】力をあわせて共に未来へ

さまざまな人たちと連携・協力し、共に学び、共に考え、共に成長する

- 市民や民間団体と、地域の生態系保全、環境教育に取り組むほか、動物園運営に対しての支援を通じた連携を推進する。
- 社会貢献活動の場として、民間企業と保全活動や環境に関連する連携強化を図る。
- 学校と動物園を活用した教育プログラムを作成・実施する。
- 社会教育施設と環境教育を多角的に進める。
- 大学等の研究機関と連携し、研究や人材育成の場として機能強化を図る。
- 国や北海道と、野生生物保全や外来生物対策を推進する。
- 道内の動物園・水族館と道内の生物多様性の保全に貢献する。
- 国内の動物園・水族館と血統管理や繁殖に取り組む。
- 海外の動物園・水族館や研究機関と新しい血統の導入のための関係を築く。

第4章 基本理念を実現するための基盤

1 飼育展示していく動物種の考え方

飼育展示していく動物種の考え方を整理する必要性

動物園での展示にあたっては、かつては、海外から野生個体を捕獲して導入する場合もあったが、現在は、動物園生まれの動物の展示が前提となっている。一方、動物たちの健全な発育のためには、遺伝子の多様性についても配慮し、動物を飼育する上では動物福祉に十分に配慮する必要がある。しかしながら、動物園における資源が限られていることや、繁殖には長期的な計画が必要なことから、今後、飼育展示していく動物種の方向性をあらかじめ決めておく必要がある。

飼育展示していく動物種の方向性を考える上での観点と分類

今後、飼育展示していく動物種の方向性を次の観点から考察し、積極的に繁殖に取り組む種（推進種）、状況に応じて繁殖に取り組む種（継続種）、やむを得ず飼育を断念する種（断念種）に分類。

なお、この考え方に基づく各動物種の分類については、動物園において整理する。

●観点：円山動物園で飼育展示する意義

- 保全
国内外における種の保存の取組状況
- 教育
環境・情操教育における必要性

●観点：円山動物園で飼育展示していくために必要な条件

- 動物福祉の確保
飼育面積や飼育環境の確保など、動物福祉向上の可能性
- 飼育の持続性
寿命や国内外での飼育頭数などを踏まえた将来的な飼育・繁殖・維持の可能性

2 経営基盤

人材

- 動物専門員の専門知識習得などによるスキルアップと、その技術を生かせる環境をつくる。
- 獣医療の臨床に適性のある獣医師を継続的に確保するための体制づくりを目指す。
- 多様な施設を専門知識に基づき適切に管理していくことができる体制をつくる。
- 人的ネットワークを育み、長期的視点を持って一貫して運営を行うことができる環境づくりを行う。

持続可能な経営の考え方

- より効率的な運営を行っていくとともに、持続可能な動物園運営のあり方について検討を行う。
- 企業連携などによる新たな収入確保の取組のほか、受益者負担の適正化の検討を進める。

運営への市民参画の推進

- 市民の善意の気持ちや、保全の取組や動物福祉の充実に係る施設整備などにつながる仕組みをつくる。
- 市民の財産である動物たちを守っていくため、条例制定の意義や必要性について検討する。

3 行動指針

動物園で働く全てのスタッフは、次の行動指針に従って、常に動物や環境、社会のために自分に何ができるのかを考え行動していく。

- 生物多様性を保全するために、環境教育・学習の拠点で働く職員として、「環境首都・SAPPORO」の実現に向けた市民の配慮指針である「地球を守るためのプロジェクト・札幌行動～市民行動編（さっぽろエコ市民26の誓い）」に率先して取り組み、市民の模範となる行動を実践する。
- 環境教育を推進するために、積極的に来園者の前に向き、動物の紹介や疑問に対して丁寧に対応するなど、地球環境の現状や生物多様性の必要性などを伝える。
- 来園者に心地よく過ごしてもらうために、積極的にコミュニケーションを図り、来園者の立場に立った分かりやすく丁寧な対応を心がけるなど、常におもてなしの気持ちをもって接する。
- 動物福祉に配慮するために、まず、基本を身につけ、絶えず基本に立ち返りながら日々の飼育業務に取り組むなど、動物を飼育する者としての責務である動物福祉の向上に取り組む。
- チームワークの強みを最大限生かすために、全員が組織を超えて目的を共有し、責任を持って行動する。
- 法令等の遵守のほか、市の定める内部規定や業務マニュアル等に基づき誠実に業務を遂行する。